

2026 年 9 月 18 日

テスホールディングス株式会社

【世界初】PTEC 社が「EFB ペレットの製造」における GGL 認証を取得いたしました

テスホールディングス株式会社（本社：大阪市淀川区、代表取締役社長：山本 一樹、以下「当社」）は、当社の連結子会社である PT PTEC RESEARCH AND DEVELOPMENT（本社：インドネシア 北スマトラ州、代表取締役社長：石田 智也、以下「PTEC 社」）が行う、農作物残渣由来のバイオマス燃料である「EFB^{※1}ペレットの製造」について GGL 認証（Green Gold Label）を取得したことをお知らせいたします。なお、本取り組みにおける GGL 認証の取得としては、世界初^{※2}となります。



■サプライチェーン全体で持続可能性を認証、世界初となる EFB ペレットの製造における GGL 認証を取得

GGL 認証は、2002 年に発足した歴史ある持続可能なバイオマス認証制度のひとつであり、調達されたバイオマス製品が持続可能な方法で生産されていることを第三者機関が証明する国際的な認証です。今回 PTEC 社は、原料の調達から EFB ペレット製造実証工場^{※3}での加工、製品としての EFB ペレットに至る一連のサプライチェーンに対して GGL 認証を取得いたしました。

■農作物残渣の有効活用により、パーム産業が抱える課題に貢献

今回の認証取得の背景のひとつに、パーム産業が抱える課題が挙げられます。インドネシアは世界最大のパーム油生産国であり、パーム油産業はインドネシアの経済を支える重要な基盤となっております。その一方で、パーム油を搾油する際に大量に発生する EFB は、肥料や燃料等に利用される以外の大半は有効な活用方法が無いことから未利用のまま放置されており、土壌汚染や腐敗時の温室効果ガスであるメタンガス（メタンガスの地球温暖化係数^{※4}は二酸化炭素の約 28 倍）の発生が問題視されております。そのため、EFB の有効活用は、パーム油生産国における重要な課題の一つとなっております。

PTEC 社では、こうした EFB をペレット化し、バイオマス燃料として活用することで、農作物残渣の有効活用及び環境負荷の低減に取り組んでおります。

また、本取り組みは、インドネシア政府が推進する「下流化」（天然資源を原料のまま輸出するのではなく、国内で加工し、高付加価値化したうえで輸出する取り組み）にも合致するものであり、インドネシアにおける産業発展や雇用創出への貢献も期待できます。



■今後の展望

当社グループは、2030 年 6 月末までの経営計画を定めた中期経営計画「TX2030」において、「資源循環型バイオマス燃料事業」を注力事業分野の 1 つに位置付けており、EFB や PKS^{※5}等のパーム産業における農作物残渣の活用によりサーキュラーエコノミーとストックビジネスの拡大を目指しております。

EFB ペレットについては、量産化に向けた研究開発を継続し、大規模商業化に向け、中計期間において 10 万 t/年の製造能力の確立を目指してまいります。

今後も当社グループでは、PTEC 社における農作物残渣を利用したバイオマス燃料の製造事業を通して、世界的なカーボンニュートラルの実現に貢献してまいります。

※1 EFB（Empty Fruit Bunch）：

アブラヤシからパーム油を搾油する際の副産物（残渣）である椰子空果房のこと。

※2 公開情報より当社調べ（2026 年 9 月 18 日時点）

※3 インドネシアにて EFB ペレット製造の実証を行う工場が完工、竣工式を実施いたしました（2026 年 7 月 6 日公表）：<https://ssl4.eir-parts.net/doc/5074/tdnet/2847983/00.pdf>

※4 地球温暖化係数（GWP: Global Warming Potential）：

二酸化炭素を基準にして、その他の温室効果ガスがどの程度温暖化する能力があるか表した数字のこと。

※5 PKS（Palm Kernel Shell）：

パーム椰子の種からパーム油を搾油した後に残った椰子殻のこと。

■ 本件に関するお問い合わせ先

テスホールディングス株式会社 広報 IR・予算チーム

<https://www.tess-hd.co.jp/contact/>

※当社グループは、テレワーク・時差出勤を取り入れております。そのため、お電話での対応ができない場合がございますので、ホームページよりお問い合わせください。

ご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。